

# 「大腸癌の癌進展、とくに肝転移におけるメタドヘリン分子の 生物学的役割の解明」

## に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年10月11日 ～ 2023年3月31日

### 〔研究課題〕

大腸癌の癌進展、特に肝転移におけるメタドヘリン（MTDH）分子の生物学的役割の解明

### 〔研究目的〕

癌転移制御のカギとしてメタドヘリンに注目し、その生物学的役割を解明し、それらをターゲットとした転移抑制を目指した新たな治療戦略を構築することを目的とします。

### 〔研究意

癌細胞の増殖・浸潤及び血管新生などのいくつかの癌進展研究がなされるに

が、

そのなかで、とくに転移巣形成過程におけるメタドヘリンの関与が注目されています。

さらに、臨床において乳癌をはじめいくつかの悪性腫瘍においてメタドヘリンの高発現群の予後は、低発現群に比して有意に不良であるとも報告されています。しかしながら、これらのプロセスにおけるメタドヘリンの生物学的役割、とくに転移腫瘍形成におけるメタドヘリンの機能的役割、また、その重要性は依然として不明のままです。メタドヘリンの生物学的役割を解明することは癌の転移に関する普遍的な分子機構の謎を解く上で非常に有用であり、今後の新しい癌治療への展開が期待できます。

### 〔対象・研究方法〕

2017年4月～2019年3月に帝京大学ちば総合医療センター外科において大腸癌（大腸癌肝転移切除症例も含む）の診断で根治切除が施行され、手術時に病理用パラフィンブロックが作成されて保管されている患者様を対象とします。

保管されているサンプルを用いてメタドヘリンの発現を免疫染色にて評価します。また検査所見、病理所見や治療内容、予後等を集計します。

### 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター外科

研究代表者：教授 清水宏明

### 〔個人情報の取り扱い〕

個人情報は秘匿化し厳重に管理します。研究の成果を発表したり、それをもとに特許等の申請をしたりする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

対象となる患者さまで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。  
ご協力よろしくお願い申し上げます。

#### 問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 外科 教授 清水宏明

研究分担者： 外科 教授 幸田圭史

准教授 首藤潔彦

講師 小杉千弘

助教 細川勇、高橋理彦

光学診療部 病院教授 山崎将人

病院病理部 教授 山崎一人

住 所：千葉県市原市姉崎 3426-3 帝京大学ちば総合医療センター 外科

T E L : 0436-62-1211 (代表) [内線 2750 ]